令和 5 年 10 月 10 日
愛知県上海産業情報センター
淺　井　　一　志

一般調査報告書
第 19 回杭州アジア競技大会について

本年 9 月、中国国内の大きな話題の 1 つに、同月下旬から 10 月初めにかけて開催された「第 19 回杭州アジア競技大会（以下、アジア大会）」がありました。これはいわゆる「アジア版オリンピック」とも呼べるもので、アジア地域の国々からアスリートが集うスポーツの祭典で、4 年に 1 度開催されるものです。第 19 回大会は中国・浙江省の省都である杭州市（上海から南に高速鉄道で 1 時間ほどの距離）で開催されました。本来であればこれは 2022 年に開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の流行のため 1 年延期され、2023 年に実施されることとなったものです。

この大会、愛知県にとっては非常に大きな意味を持ちます。既に多く報道されていますが、次回 20 回大会は愛知・名古屋が会場となるためです。既に愛知県と名古屋市、日本オリンピック委員会（JOC）などは「愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会（AINAGOC）」を組織し、準備を開始しており、杭州アジア大会にも多くの関係者が業務・視察で訪れていました。筆者も、次回大会の主催者として同大会を視察・訪問する愛知県知事等のサポート役として出張してまいりました。実際の競技の様子などは既にメディアなどで多く報道されておりますので、ここでは、次回大会主催自治体の一職員としての目線で、見聞を深めたこと、印象に残ったことなどについて、報告したいと思います。

【開催地として、総力を挙げての準備・運営に対する意思を痛感】

アジア大会は、1951 年にインド・ニューデリーで第 1 回大会が開催されて以降、基本的に 4 年に 1 度開催されており、今回の杭州大会が 19 回目となります。いわゆる「オリンピックのアジア版」と認識されていますが、軟式テニスや囲碁など、アジア地域の特色ある競技が含まれているのが特徴です。また、今回の大会から eSports（コンピューターゲームや、ビデオゲームなど、電子機器を使った対戦をスポーツ競技として捉えたもの）が正式競技種目となったことも注目を集めました。

今回のアジア大会には、主催者であるアジアオリンピック委員会（OCA）に加盟する 45 か国から、1 万 2 千人を超えるアスリートが、40 種類の競技種目で競い合いました。会場となった中国浙江省杭州市（浙江省の省都。人口約 1,200 万人）は、街全体でアジア大会を強力にサポートする体制が整っており、市内道路の至る所に交通整理のための警官が多数配置され、路面には「アジア大会専用レーン」が設定されるなど、徹底してアスリートや要人の移動が安全・円滑に実施できる配慮を感じ取ることができました。

また、杭州の高速鉄道の駅には、到着すると大きな案内看板と案内員が全ての出口に配置されており、来訪者の質問に対応していました。同様の対応は杭州空港でも同じで、杭州市が総力を挙げてアジア大会を運営する、という意思を肌で感じることができ、次回開催地である愛知・名古屋の関係者の 1 人として、大変参考になるとともに、身の引き締まる思いでした。

愛知県
Copyright © 2023, Aichi Prefecture.
All rights reserved.

アジア大会専用レーン

鉄道駅には大きな案内表示

（筆者撮影）

また、杭州市に本社を置く自動車メーカー吉利（Geely、ジーリー）が主要スポンサーとして会場施設間を移動する際の車両を提供していました。同社は色々な車両を用意しており、関係者は自然に同社の色々な車種を事実上試乗することが可能となっていました。業務の都合上、実際に筆者も何車種かの車両に試乗しましたが、ガソリン車やプラグインハイブリッド車などいずれも上質な乗り心地と高い質感を感じ、同乗した日本政府関係者が「実際に乗ってみて、良い意味で中国車への見方が変わった」と話していたのが印象的でした。

セダンや SUV など、色々な車両に事実上の試乗が可能

（筆者撮影）

【安全に対する高い意識】

今回の業務を通じて感じたのは、アジア大会に参加するアスリートや各国政府関係者などの要人を、安全かつスムーズに移動させるために、大会主催者が極めて高いレベルでの準備を行い、それを実施しているという点でした。開会式などのセレモニーには一般の観客の入場はほぼ不可能で、参加者は事前に

愛知県
Copyright © 2023, Aichi Prefecture.
All rights reserved.

多くの個人情報を提供し、発行された「パス」を持参（セレモニーの種類によっては携帯電話以外の一切の持ち物の持ち込みが禁止）、かつ、そのパスでしか入場が許されない「会場行きバス乗り場」となっている指定ホテルに集合したうえで、さらなるセキュリティチェックを経て、専用のバスにて会場への入場が許される、というものでした。非常に煩雑で時間のかかる作業ですが、例えば上述の専用バスでの移動にあたっては警察が会場までの道路（所要：20 分程度）を高速道路含め完全に封鎖し、信号待ちなども一切なく、スムーズに移動ができたのが印象的でした。また、杭州市内の一部地下鉄は閉会式などの開催日は早朝から深夜まで運行が停止されるなど、一般市民の利便性よりも大会運営を明確に優先し対応する開催地の強い意志を感じました。こうした努力の結果もあり、大会期間中は安全上のトラブルなどの情報が入ってくることは一切ありませんでした。

厳重に管理される競技会場への一般入場者入口

（筆者撮影）

【デジタル・最先端技術のショーケース】

大会は、デジタル技術を中心に、中国の高い技術水準を PR する絶好の機会を提供していました。特に、開会式・閉会式で会場内に展開された巨大な透明薄型スクリーンが目を引きました。また、会場内に広く設置された芳香発生装置からは、地元特産である蓮の花の良い香りが発生し、会場内を包んでいました。今回から正式競技種目となった eSports では、会場とその雰囲気自体が 1 つのエンターテインメントとして感じられるほど独特で、スポーツの概念を塗り替えるような仕掛けが随所に見られ、大変参考になりました。

こうした技術・設備を目の当たりにすれば、自国の産業や企業、技術への自信が沸くのもうなずけます。今回大会と次回大会では予算規模や開催目的なども大きく異なり単純な比較は大きな意味を持ちませんが、ものづくりの集積地を自負する愛知・名古屋として、可能な範囲でベストを尽くした技術・設備を展開、PR することができれば、何よりの PR になるかと思います。

愛知県
Copyright © 2023, Aichi Prefecture.
All rights reserved.

競技会場に展開された透明超薄型スクリーン（閉会式の様子）

会場内の芳香発生装置

eSports 会場

（筆者撮影）

【愛知・名古屋も次回開催地としてＰＲ】

大会期間中、愛知・名古屋も次回開催地としてのＰＲを積極的に行いました。その目玉となったのは、期間中に開催した「第 19 回杭州アジア競技大会 JOC／愛知・名古屋レセプション」です。大会関係者 280 名が集まったこのレセプションでは、愛知の広報動画「愛知のトビラ」や次回愛知・名古屋アジア大会 PR 動画を放映したほか、次回大会である愛知・名古屋大会の PR を行いました。あわせて、会場では愛知・名古屋の PR ブースを設けるとともに、抹茶の体験ブースを展開したほか、忍者によるパフォーマンスを実施しました。

愛知県
Copyright © 2023, Aichi Prefecture.
All rights reserved.

鏡開きの様子　　OCA ﾗｼﾞｬ・ｼﾝ会長代行始め
登壇者の皆さんと記念撮影の様子

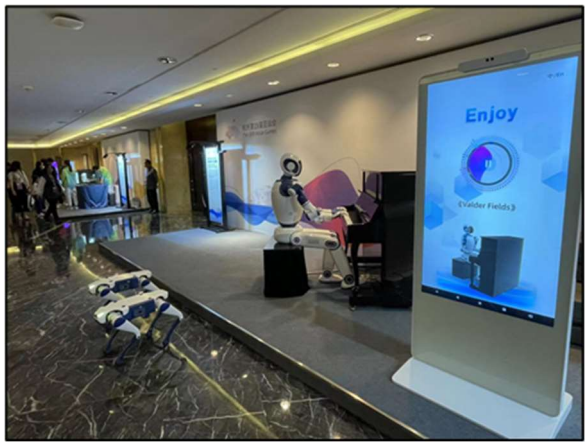
（愛知県記者発表資料より）

【「おもてなし」を通じて地元産品・技術をＰＲ】

会場の設備やセレモニーでの PR とは別に印象的だったのは、開催地域が誇る製造業や、特産品などが多く展示され、各国から当地を訪れた大会関係者、アスリートから関心を集めていたことでした。杭州市を含む浙江省は中国内有数の緑茶「龍井（ロンジン）茶」の産地ですが、会場施設の至る所で試飲ができるようになっていました。大会参加者の宿泊先として主催者が指定している主要ホテルではお茶の試飲ブースがあり、英語堪能なスタッフが常駐して、体験者への丁寧な説明と歓談が行われ、和やかな雰囲気が醸し出されていました。

また別のコーナーでは人型ロボットによるピアノの演奏や、犬型ロボットによる場内の「散歩」など、杭州市が誇る最先端の技術が紹介されていました。杭州はインターネット業界で世界的に有名なアリババが本社を設置していますが、同社もまた今回の主要スポンサーとして、大会運営のシステムなどを提供しているとのことです。

ロボティクスやスマート製造など、地域の最先端産業を PR



Copyright © 2023, Aichi Prefecture.
All rights reserved.

杭州特産の蓮をアピール

和やかな雰囲気の中、特産のお茶を提供

（筆者撮影）

【国際イベントを通じて、若者への刺激と成長のきっかけを与えることが何より重要】

こうした「おもてなし」を通じて、開催地の特色を PR することは、次回開催地である愛知・名古屋でも大いに実施すべきではないかと感じました。また個人的に印象的だったのは、こうした PR の場所に多くの学生ボランティアが常駐し、終始笑顔で対応していたことです。多くの大会参加者は当然のことながら競技や視察を目的で来訪しており、地域の特色についての知識は殆どありません。一方でこうした国際イベントに参加する多くの方は、新しい知識を身に着けることや未知の体験をすることに対し、高い関心を持っています。こうしたご当地 PR は、それを受けた世界各国の方々が帰国後にそれを口コミで広めることにもつながり、開催地の知名度アップに非常に効果的ではないかと思います。

また、開催地である杭州は、上海や北京ほどに国際的なイベントに恵まれていないのが現状です。アジア大会は、多くの市内の若者に素晴らしい国際経験の機会を提供するだけでなく、ここで味わった刺激が、おそらく彼らの目を世界に向けさせ、国際人としての成長を促すのではないかと感じました。そしてそうやって育成されたグローバル人材が、杭州の未来を形作っていく…そんな気がしてなりません。このことは、次回開催地である愛知・名古屋にもそのまま当てはまります。次回主催自治体関係者の一員としては、もちろん大会本体での日本人アスリートの活躍にも期待しますが、このイベント運営と、それに関わる若手職員や学生ボランティアなど、若者のグローバル人材としての成長のきっかけとなればベストである、という思いを強くしました。

故郷・杭州市で英語教師などの経験を経てアリババを創業したジャック・マー氏は、米国のテレビ番組でのインタビューで、「英語を学ぶことは、単に言語を学ぶのではない。それ通じて、自分とは異なる文化・ものの考え方を学び、そしてそれを通じて、他者をリスペクト（尊重）することを学ぶ。だからこそ、英語を学ぶことは重要なのだ」と語っています。これは、今回・次回のアジア大会にそのまま当てはめることができるのではないかと感じます。予算的・人的な限度はどうしてもありますが、自治体・産業・大学などが一丸となり、愛知・名古屋の将来のため、そして何より、未来を創る若者たちのため、これからの 3 年間でしっかり準備をしていくことが重要です。愛知県上海産業情報センターとしても、その PR を中国内でしっかり行っていこうと考えています。

愛知県
Copyright © 2023, Aichi Prefecture.
All rights reserved.

参考：最近の中国内の主な動き

2023 年

9 月 2 日　各種報道によれば、中国政府は、2023 年の新車販売台数を 2,700 万台にするとの目標を掲げた。このうち「新エネルギー車（ＮＥＶ）」は 900 万台に設定。目標を設定した以上はその達成に全力を挙げるとみられ、今後、追加的な需要刺激策を打ち出す可能性がある。

9 月 9 日　中国国家統計局の発表によれば、2023 年 8 月の消費者物価指数（ＣＰＩ）は前年同月比で 0.1%上昇した。2 年 4 カ月ぶりのマイナスとなった前月からプラスに転じた。食品以外の値上がりが押し上げたとみられる。

9 月 15 日　中国国家統計局の発表によれば、8 月の小売売上高は、前年同月比 4.6%増加した。伸び率は前月よりも 2.1 ポイント上昇。一方で、1～8 月の不動産開発投資額は前年同期比 8.8%減と低迷が続く。

9 月 18 日　中国税関総署の発表によれば、中国が 8 月に日本から輸入した水産物の総額は前年同月比 67.6%減の 1 億 4,902 万元（約 30 億円）だった。7 月の 28.5%減から大きく減少した。8 月 24 日から日本の水産物輸入を全面停止したことが影響したとみられる。

愛知県上海産業情報センターでは、今後も中国の現地情報を提供して参ります。

本資料は、上海産業情報センターが、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。
上海産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力していますが、その正確性を保証するものではありません。本情報の採否は読者の判断で行ってください。
また、万一不利益を被る事態が生じましても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。

Copyright © 2023, Aichi Prefecture.
All rights reserved.